



No. 156

ティークレイク

## Tea Break

何時かはバイオリン

会員 若林 擴

色々な師匠に教えを受けて長唄を50年、二人の人間国宝の新内の師匠に、浄瑠璃と新内三味線の教えを受けて弾き語りを10年、銀座の飲み屋で津軽三味線の「津軽じょんから6段」から「旧節」を3年、浅草の三味線屋の教室で生田流の琴の師匠に胡弓を4年、銀座山野楽器でチェン・ミンに二胡の奏法の公開講座で手ほどきを受け、チェン・ミンのNHKの番組で二胡を教習し、芸大のサマー・スクールで篠笛、締太鼓、小鼓の各楽器を6年間習得し、日本伝統の正月のお弾き初め、夏の浴衣会を満喫し、隅田川の屋形船の舟遊びで、新内「蘭蝶」、「流し」そして「都々逸」などの弾き語り演奏を皆さんに披露して楽しんで来た。

したがって、我が家の「邦楽専用音楽室」には、三味線は細棹、中棹、太棹合わせて10丁を超え、その他の楽器は胡弓2丁、中国の二胡1丁、篠笛4本、締太鼓1丁、小鼓1丁がある。

傘寿を迎えて心機一転した。

友人から「傘寿のお祝いに何が欲しい?」と聞かれた。何時かはバイオリンを弾いてみたいと思っていたので、直ちに「バイオリンかな?」と答えたところ、お祝いに銀座のヤマハでバイオリンを買って頂くことになった。

バイオリンは値段に比例して音が違うそうだ。銀座のヤマハ楽器でバイオリンが弾ける店員に、値段の異なるバイオリンを安い方から順に弾いて貰って比べて見た。値段が高くなるにつれて、このランクのバイオリンの音色の違いが判らなければ「これ以上のバイオリンを買うのは無駄でしょう」と音大出の店員にハッキリ云われた。

値段によるバイオリンの音の違いを納得した上で購入し、直ちに銀座のヤマハの「クラシック・バイオリン教室」に入会した。

かねてより、オペラ二期会所属の二枚目役のテノール

歌手に師事し、ソプラノ歌手でありまたピアニストでもある美人の奥様のピアノ伴奏で、テノールのボイス・トレーニングを3年以上に亘って受けていた。

今年10月の恒例のオペラ歌曲発表会で第二部の最後に歌うことになった。1曲目はプッチーニのトスカのアリア「星は光りぬ E lucevan le stelle」を歌うことにした。原曲では、その美しいイントロ4小節はオーボエなどの木管楽器で演奏されている。私はこのイントロのみを自らバイオリンを弾いて演奏し、後はピアノに合わせて歌おうと決めた。

2曲目は、ベルディのオペラ「椿姫」第1幕第2景から「乾杯の歌 Brindisi」のアルフレッドのテノールを私、ヴィオレッタのソプラノを、元ハンブルグ総領事だった弟の奥さんでアマチュアのソプラノ歌手にお願いした。

それにしても、まずはバイオリンが弾けなければならぬ。問題は、永年日本伝統音楽の数字又は記号からなる独特の楽譜に慣れていたので、西洋音楽のソルフェージュの勉強をした事が無い。したがって楽譜を素早く読むことが出来ない。

アメリカ人の友人が、昔は、アメリカでもイタリア語のドレミファソラシドは習わなかったそうだ。CDEFG ABしか知らないのには驚いた。日本語でも昔はハニホヘトイロと習ったそうだ。ドレミファソラシドは世界共通音階の呼称だと思っていた。

まずボウ(弓)だ。文字通り元は武器の弓の如く半円形だったそうだ。木製のスティックに取り付けた馬(蒙古馬)の尾の毛を平たく張り、手元でスクリューを回転させてテンションを与えて緊張させ、松脂を塗って摩擦力を生じさせ、親指と中指で黒檀のフロッグを軽くつまみ、人さし指と薬指でサム・グリップの側面を支え、やや湾曲させた小指でスティックの上面を軽く押さえ、ス

ティックを保持しながらボーイングをするという事はそう簡単ではない。

バイオリンのチン・レストに顎を乗せ、ショルダー・レストとの間にバイオリンを挟み付け「顎だけでバイオリンをブラブラと保持させて下さい」と言われてもこれがまた大変。

左手の親指をネックに添えるだけでバイオリンを軽くサポートし、自由になった左手の指番号(1)の人差し指、同(2)の中指、同(3)の薬指、同(4)の小指で、ミ・ラ・レ・ソ E/A/D/G に調律した各弦を、フィンガー・ボード上で音階を押さえるフィンガー・ディストリビューションは、指番号(4)の小指を伸ばすことがとんでもなく大変なことだ。

特に指番号(2)の中指は、小鼓の稽古に熱中した時期に、鼓の締緒を強く握り締め過ぎて、「Trigger・finger 所謂ばね指」になってしまった。整形外科でこの指の折り曲げのリハビリを続けながらのバイオリンのフィンガーリングは極端に辛い。

バイオリンを顎でチン・レストとショルダー・パッド間に中々挟めず、私の顎が短いのか、首が太いのか？バイオリン奏者の葉加瀬太郎氏は何故あんなに首が太く、顎が無いのに、顎をチン・レストに乗せ、ショルダー・パッドとの間にバイオリンを挟んで、左手をバイオリンのネックに軽く添え、器用に顎で挟んで軽々と弾いている姿は信じられない。

苦心の末、チン・レストをセンター・タイプに交換し、曲りなり、バイオリンを顎に挟むことに慣れて、音階を押さえる練習を終え、最初に教室で弾いた曲は、感動的なベートーベンのシンフォニー第九番の「歓びの歌」であった。

次は、いよいよ基礎のグループ・レッスンを離れ、「星は光りぬ E lucevan le stelle」の4小節を弾くため、芸大出の先生の個人教授に切り替えた。あと2か月しかない。

洋楽は先ずは姿かたちからと、お坊さんになったら頭を丸めるように、オペラ歌手兼バイオリン奏者を目指すため、ヘアをキング オブ バイオリンのマキシム・ヴェンゲーロフでなく、又超絶技巧のデイビッド・ギャレットでもなく、葉加瀬太郎にした。これでヘアは日本伝統音楽演奏家からクラシック・アーティストに変身だ。

それでもオペラ歌曲発表会の舞台のコスチュームは着物にしなくてはならない。アメリカ人のシェフが張り切って作ってくれる、皿数の多い、美味しい食事の結果、

太りすぎて、全てのステージ・コスチュームのフロントボタンが掛からなくなった事も理由の一つである。

現在、新設された東大の肥満外来の栄養士の指導の下に、提出させられた皿数の多い食事のメニューからカロリーの多い皿数を大幅にカットされた。現在月に1キログラムを目途に減量しているので、すでに5キログラムは痩せ、10月の舞台までにはフォトジェニックになるかもしれない。

我が家には「洋楽専用音楽室」もある。若いころから練習したが続かなかったヤマハのクラビノーバのピアノが、私専用で作った音楽ホールに備え付けたものを合わせて2台と、ムラマツとSANKYOのフルート3本と、アメリカから輸入したが後で日本製と判った美しいガラスのフルートとピッコロと、ウクレレの師匠であった高木ブー氏デザインのブーズ・モデルのロングネックのウクレレ1本と、キワヤのエレキ・ウクレレ1本及びローランドのアンプなどの音響機器がある。今回、ここにヤマハのバイオリンが加わった。当面は、あの4小節のイントロを演奏する為のバイオリンの練習と共に、オペラの発声練習を続ける事となる。

オペラ二期会のテノール歌手の先生から、「貴方の長年邦楽で身に付けた腹式呼吸とその持って生まれた声はオペラ歌手に向いています」と言われた。この「殺し文句」を胸に、体型だけでなく、ルチアーノ・パヴァロッティのハイCに近づくテノールで、持ち歌のディ・カプアのカンツォーネ「オー・ソレ・ミオ 'O sole mio!」で先ず声出しをして、プッチーニのオペラ、トーランドットの「誰も寝てはならぬ Nessun dorma」を絶唱し、そして次回曲ルッジェーロ・レオンカヴァーロのオペラ「道化師 Pagliacci」の第1幕から「衣装をつけろ Vesti La Giubba」を暗譜するため、大音響で、繰り返し、ルチアーノ・パヴァロッティとプラシド・ドミンゴの歌を聞き比べている。

イタリアの街並みの狭い道路に駐車している数台の車を巧みに回避しながら、猛スピードで走るトヨタ車のテレビのコマーシャルで、道路に駐車している数台の車は、皆さん気が付かれたでしょうか？ 何と立体的に道路に描かれた平面の騙し絵で、そのバックに流れる素晴らしい歌声のテノールが、ルッジェーロ・レオンカヴァーロのオペラ「道化師 Pagliacci」中の「衣装をつけろ Vesti La Giubba」であります。いったい誰が歌っているのでしょうか？